

〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

平 修 久 たいら・のぶひさ

コーネル大学博士課程修了。Ph.D. (都市及び地域計画学)。シンクタンク勤務を経て、2000年より聖学院大学政治経済学部教授。現在、聖学院大学副学長、基礎総合教育部長。聖学院大学総合研究所教育総合研究センター長。

2007-15年に、地域活動の活性化のため、学校法人聖学院が中心となって設立したNPO法人コミュニティ活動支援センターの理事長を兼務。地域の方々とともにまちづくり協議会ローバーを立ち上げ、グリーンフェスタ (野点)、竹林整備・竹炭づくりなどを行うとともに、2008年度には上尾市市制50周年記念事業として桜名所づくり事業を実施。

〔著書〕『地域に求められる人口減少対策——発生する地域問題と迫られる対応』(聖学院大学出版会, 2005年), 『もう一つのスマートグロース——スマートさから学ぶもの』(三恵社, 2009年), 『巨大災害と人間の安全保障』(共著, 芙蓉書房, 2013年), 『アメリカの空き家対策とエリア再生——人口減少都市の公民連携』(学芸出版社, 2020年) ほか。

関根 清三 せきね・せいぞう

聖学院大学総合研究所副所長。聖学院大学大学院文化総合学研究科特任教授。東京大学大学院人文社会系研究科倫理学専攻博士課程修了。東京大学より博士 (文学), ミュンヘン大学よりTh.D.。東京大学大学院人文社会系研究科教授を経て, 同名誉教授。

〔著訳書〕*Die Tritojesajanische Sammlung (Jes 56-66) redaktionsgeschichtlich untersucht*, BZAW 175 (de Gruyter, 1989), 『旧約における超越と象徴——解釈学的経験の系譜』(東京大学出版会, 1994年), 『イザヤ書』(旧約聖書7, 岩波書店, 1997年), 『旧約聖書の思想——24の断章』(岩波書店, 1998年〔改訂版, 講談社, 2005年]), *Transcendancy and Symbols in the Old Testament: A Genealogy of the Hermeneutical Experiences*, BZAW275 (de Gruyter, 1999), 『倫理思想の源流——ギリシアとヘブライの場合』(放送大学教育振興会, 2001年〔改訂版, 2005年]), 『倫理の探索——聖書からのアプローチ』(中央公論新社, 2002年), 『エレミヤ書』(旧約聖書8, 岩波書店, 2002年), *A Comparative Study of the Origins of Ethical Thought: Hellenism and Hebraism* (Rowman & Littlefield Publishers, 2005), 『旧約聖書と哲学——現代の問いのなかの一神教』(岩波書店, 2008年), 『ギリシア・ヘブライの倫理思想』(東京大学出版会, 2011年), 『アブラハムのイサク献供物語——アケダー・アンソロジー』(編著, 日本キリスト教団出版局, 2012年), *Philosophical Interpretations of the Old Testament*, BZAW 458 (de Gruyter, 2014), 『内村鑑三——その聖書読解と危機の時代』(筑摩書房, 2019年) ほか。

山中 美樹 やまなか・みき

聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究所博士前期課程終了。現在、聖学院大学大学院文化総合学研究所在籍。

小林 茂之 こばやし・しげゆき

東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士課程単位取得満期退学。聖学院大学人文学部助教授（准教授）を経て、2016年4月より同教授。2012～13年度ケンブリッジ大学クレアホールコレッジ客員研究員として英国ケンブリッジに滞在。2013年より同コレッジ終身メンバー。2019年度名古屋大学大学院人文学研究科客員研究員（英語学）。英語歴史言語学、通時統語論、比較統語論専攻。主な研究テーマは、古英語・中英語における言語変化。英訳聖書および初期英語キリスト教文献へのラテン語・ギリシア語からの影響を中心に、文献学・歴史学との学際的研究も進めている。

宮本 悟 みやもと・さとる

1970年大阪生まれ。1992年3月、同志社大学法学部卒。1999年2月、ソウル大学大学院政治学科修士課程修了〔政治学修士号〕。2005年3月、神戸大学大学院法学研究科博士後期課程修了〔博士号（政治学）〕。日本国際問題研究所研究員、聖学院大学総合研究所准教授を経て、現在、聖学院大学政治経済学部教授。専攻は国際政治学、安全保障論、比較政治学、朝鮮半島研究。〔著書〕『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか？——政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』（潮書房光人社、2013年10月）。〔共著〕木宮正史編『朝鮮半島と東アジア』（遠藤誠治・遠藤乾編集代表「シリーズ日本の安全保障6」、岩波書店、2015年6月）、川上高司編著『「新しい戦争」とは何か——方法と戦略』（ミネルヴァ書房、2016年1月）、中川雅彦編『国際制裁と朝鮮社会主義経済』（情勢分析レポート no. 30, アジア経済研究所、2017年8月），“North Korea’s Foreign Policy: A Non-isolated Country with Expanding Relations,” in Takashi Inoguchi ed., *The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy* (SAGE Publications, 2019) など。

中川 雅彦 なかがわ・まさひこ

1964年福岡生まれ。1987年3月、早稲田大学政治経済学部卒。1991年3月、東京外国語大学大学院修士課程修了（国際学修士）、同年4月、アジア経済研究所入所。1996年3月から1998年3月まで同研究所在ソウル海外派遣員、2005年3月から2006年3月まで在モスクワ海外調査、2006年3月から2007年まで在ソウル海外派遣員、2017年3月から2020年3月まで在ソウル海外

調査員。現・日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター主任調査研究員。

〔著書〕『朝鮮社会主義経済の理想と現実——朝鮮民主主義人民共和国における産業構造と経済管理』(アジア経済研究所, 2011年)。〔共著〕李成市・宮嶋博司・糟谷憲一編『世界歴史大系朝鮮史2——近現代』(山川出版社, 2017年10月), 『アジア動向年報』(アジア経済研究所, 各年版)。〔編著〕『アジアは同時テロ・戦争をどう見たか——19カ国の新聞論調から』(共編著, 明石書店, 2002年1月), 『アジアが見たイラク戦争——ユニラテリズムの衝撃と恐怖』(共編, 明石書店, 2003年5月), 『朝鮮社会主義経済の現在』(アジア経済研究所, 2009年3月), 『朝鮮労働党の権力後継』(アジア経済研究所, 2011年10月), 『国際制裁と朝鮮社会主義経済』(アジア経済研究所, 2017年8月) など。

池内 恵 いけうち・さとし

1973年生まれ。1996年3月, 東京大学文学部イスラム学科卒業。2001年3月, 東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。2001年4月, 日本貿易振興会アジア経済研究所研究員。国際日本文化研究センター助教授, 国際日本文化研究センター・総合研究大学院大学准教授, 東京大学先端科学技術研究センター准教授を経て, 現在, 東京大学先端科学技術研究センター教授。専攻はイスラーム政治思想史, 中東地域研究。

〔著書〕『現代アラブの社会思想——終末論とイスラーム主義』(講談社, 2002年), 『イスラーム世界の論じ方』(中央公論新社, 2008年), 『イスラーム国の衝撃』(文藝春秋, 2015年), 『イスラーム世界の論じ方』(増補新版, 中央公論新社, 2016年), 『サイクス=ピコ協定 百年の呪縛』(新潮社, 2016年), 『シーア派とスンニ派』(新潮社, 2018年)。

中西 嘉宏 なかにし・よしひろ

1977年兵庫県生まれ。2001年3月, 東北大学法学部卒。2007年3月, 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科修了〔博士(地域研究)〕。日本貿易振興機構・アジア経済研究所研究員などを経て, 現在, 京都大学東南アジア地域研究研究所准教授。専門は東南アジア地域研究, 比較政治学, 国際関係論。

〔著書〕『軍政ビルマの権力構造——ネー・ウィン体制下の国家と軍隊1962-1988』(京都大学学術出版会, 2009年), 『ミャンマー2015年総選挙——アウンサンソーチー新政権はいかに誕生したか』(共著, アジア経済研究所, 2016), 『ロヒンギャ危機——「民族浄化」の真相』(中央公論新社, 2021) など。

堀田 幸裕 ほった・ゆきひろ

1974年名古屋生まれ。1999年3月、愛知大学文学部卒。2002年3月、愛知大学大学院中国研究科修士課程修了（中国研究修士号）。2006年8月、筑波大学大学院人文社会科学研究所博士課程中退。霞山会へ入職。現在、同主任研究員。愛知大学国際問題研究所客員研究員を兼任。

〔共著〕中川雅彦編『国際制裁と朝鮮社会主義経済』（アジア経済研究所、2017年8月）、川島真他編『中国の外交戦略と世界秩序——理念・政策・現地の視線』（昭和堂、2020年1月）、松本はる香編著『〈米中新冷戦〉と中国外交——北東アジアのパワーポリティクス』（白水社、2020年10月）など。

松田 康博 まつだ・やすひろ

1965年北海道出身。1988年麗澤大学外国語学部中国語学科卒。1990年東京外国語大学大学院地域研究研究科修了。1994–96年在香港日本国総領事館専門調査員。1997年慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。2003年博士（法学）。1992–2008年防衛庁（省）防衛研究所で助手・主任研究官。2008年東京大学東洋文化研究所准教授を経て2011年より同教授。専攻はアジア政治外交史、東アジア国際政治研究、中国および台湾の政治・対外関係・安全保障、中台関係論、日本の外交・安全保障政策。

〔著書〕『台湾における一党独裁体制の成立』（慶應義塾大学出版会、2006年）。

〔共著〕家近亮子・唐亮・松田康博編著『5分野から読み解く現代中国——歴史・政治・経済・社会・外交』（新版、晃洋書房、2016年）、松田康博・清水麗編著『現代台湾の政治経済と中台関係』（晃洋書房、2018年）、川島真・清水麗・松田康博・楊永明共著『日台関係史——1945–2020』（増補版、東京大学出版会、2020年）など。

山根 健至 やまね・たけし

1977年大阪生まれ。2000年3月、関西外国語大学外国語学部卒。2002年3月、立命館大学大学院国際関係研究科博士前期課程修了（国際関係学修士号）。2007年9月、立命館大学大学院国際関係研究科博士後期課程修了（博士号・国際関係学）。立命館大学衣笠総合研究機構ポストドクトラルフェロー、立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構専門研究員を経て、現在、福岡女子大学国際文理学部准教授。専攻は比較政治学、国際関係論、東南アジア研究。

〔著書〕『フィリピンの国軍と政治：民主化後の文民優位と政治介入』（法律文化社、2014年）。

〔共著〕足立研幾編著『セキュリティ・ガバナンス論の脱西欧化と再構築』（ミネルヴァ書房、2018年）、中谷義和編『ポピュリズムのグローバル化を問う——揺らぐ民主主義のゆくえ』（法律文化社、2017年）、大野拓司・鈴木伸隆・日下涉編著『フィリピンを知るための64章』

(明石書店、2016年)、藤田和子・文京洙編『新自由主義下のアジア』(ミネルヴァ書房、2016年)など。

三村 光弘 みむら・みつひろ

1969年大阪生まれ。1993年3月、大阪外国語大学朝鮮語学科卒。1995年4月、大阪大学法学部法学科卒。1997年3月、大阪大学大学院法学研究科博士前期課程修了〔修士(法学)〕。2001年3月、大阪大学大学院法学研究科博士後期課程修了〔博士(法学)〕。財団法人環日本海経済研究所調査研究部研究員、同研究主任、公益財団法人環日本海経済研究所調査研究部主任研究員兼調査研究部長を経て、現在、同調査研究部主任研究員。専攻は朝鮮法、朝鮮経済、北東アジアの経済交流、朝鮮半島地域研究。

〔著書〕『現代朝鮮経済』(ERINA北東アジア研究叢書6、日本評論社、2017年9月)。

〔共著〕尹龍澤・青木清・大内憲昭・岡克彦・國分典子・中川敏宏・三村光弘編著『コリアの法と社会』(日本評論社、2020年6月)、河合正弘編著『北東アジアの経済成長——構造改革と域内協力』(ERINA北東アジア研究叢書7、日本評論社、2018年7月)、小倉和夫・康仁徳・日本経済研究センター編著『解剖 北朝鮮リスク』(日本経済新聞出版社、2016年2月)など。

玉田 芳史 たまだ・よしふみ

1958年岐阜市生まれ。1981年京都大学法学部卒業。1983年京都大学大学院法学研究科修士課程(政治学専攻)修了。1987年3月同博士後期課程中途退学。2005年法学博士(京都大学)。愛媛大学法文学部法学科助手、講師、助教授、京都大学東南アジア研究センター助教授などをを経て、現在、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授。専攻は、タイ地域研究と比較政治学。

〔著書〕『民主化の虚像と実像——タイ現代政治変動のメカニズム』(京都大学学術出版会、2003年)、*Myths and Realities: The Democratization of Thai Politics* (Kyoto University Press, 2008)。〔編著〕『政治の司法化と民主化』(晃洋書房、2017年)。〔共編著〕『民主化とナショナリズムの現地点』(ミネルヴァ書房、2006年)、『タイ政治・行政の変革1991—2006年』(アジア経済研究所、2008年)、『移民と政治——ナショナル・ポピュリズムの国際比較』(昭和堂、2011年)、『タイ2011年大洪水——その記録と教訓』(アジア経済研究所、2013年)。〔分担執筆〕*Emerging States at Crossroads* (Springer, 2019)、『世界歴史大系 タイ史』(山川出版社、2020年)。

本名 純 ほんな・じゅん

1999年オーストラリア国立大学博士課程終了 (Ph.D. [Political Science and International Relations])。現在、立命館大学国際関係学部教授。専門は東南アジア研究，とくにインドネシア現代政治。

[著書] 『民主化のパラドックス——インドネシアにみるアジア政治の深層』 (岩波書店, 2014年), *Military Politics and Democratization in Indonesia* (RoutledgeCurzon, 2003) など。